



昭和橋右岸のポイントは水深もある絶好のポイント

れ時には鯉が岸に近寄って来るからだ。鳥養さんがポイントを見る目安としては遠浅で底が砂地の所が良いという。底が石だと吸い込み釣りでは根掛かりして釣りづらく、藻もなく鯉のエサとなるエビなどもいないため、補食のために鯉が回遊することが少ないからだ。そのほかの鯉が釣れるポイントとしては、テトラや杭などの障害物回り（魚の付き場）が絶好のポイントだと言いつ。河川は大水などで様相が激しく変化する。鳥養さんは「過去に釣れた」という情報に左右されず、今現在の様相を自分の目で確認判断し、底を確実に探って相模川のポイントを選定した。相模川上流は中心の流れが強く、比較的岸寄りのゴミが溜まった所や足下のポイントを静かに狙うのが良いというので、鳥養さんは川の流れ込み、船着場の岸側ポイントに狙いを絞った。鳥養さんは、北浦や霞ヶ浦などの広い場所では5〜6本の竿を出すと言いつが、ここは狭い川の吐き出しなので、竿を3本だけ静かに出した。



まず、オモリだけ投げて底の状態を探る

「ジャミに強く大鯉が狙える」「イモ吸い込み」で攻める

12日の夜はモジリやハネはまったく見られなかった。河川や湖沼でポイントを



相模川初挑戦で70cm台の鯉を2匹を釣り上げ満足げな鳥養さん

鳥養考由

マルキユー鯉モニター鳥養考由さんに10月中旬、神奈川県相模川で、鯉釣りの実釣をしてもらい、鯉釣りや鯉エサなどについて説明してもらった。

相模川を攻める

浅場の岸際狙いで早朝に良型の野鯉2本をゲット!

10月12日夜に、鳥養さんと相模川の昭和橋で待ち合わせた。二人で竿を出す場所を探すためポイントを見て回ったが、竿を出すのが初めての場所なので河川に入る道を探すのと、オモリを投げてしっかり底を探ったので、少し手間取ってしまった。

結局、鳥養さんが選んだポイントは、相模川の上流部に近い昭和橋下流の右岸のポイントだった。右岸のポイントは左岸に比べて比較的水深もあり、テトラもあるんで、必ず鯉がいるはずと読んで竿を出したのだった。

左岸は底が玉石で水深も浅く、アユ釣りやヤマベ釣り師が川へ立ち込んで釣りをするので、日中だれもいない時に静かに竿を出すか、夜釣りで狙うのが賢明だと鳥養さんは言いつ。その訳は昼間でもエサバケツを洗つとそのエサの匂いに引かれて鯉が寄って来ることもあるし、夕暮

鳥養考由の相模川の鯉釣り

の結果と言えらるる。まあまあの型を見る事ができたので、

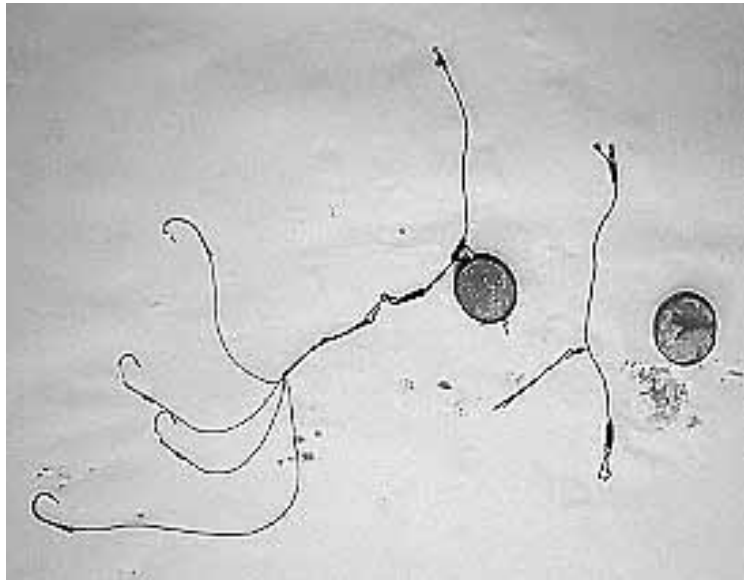
その日はアユ釣り、アユ漁の最終日で残念ながらアユの投網が入り、岸狙いは無理と判断、場所の移動をよぎなくされてしまった。しかし、相模川初挑戦で鯉の型を見る事ができたので、まあまあの結果と言えらるる。

を吸わせてできるだけ早く弱らせスムーズに取り込みことが大切だと言っ。川ではオモリが軽いと仕掛けが水流で流される。竿を立て過ぎると風でミチイトが弛むので、鳥養さんは竿をほぼ水平にセツトした。そして下流から上つて来る鯉がミチイトを気にしないように上流にセツトした竿は遠めに投げ、真中の竿は中間の距離に、3本目の竿は岸寄りにダンゴを打った。あまりいいポイントとは思えないが、なぜか気になる最下流水ポイントに1本、いわゆる捨て竿と言つ竿を出して鯉を狙うが、意外にこれがヒツトするところがあるらしい。



左が「イモ吸い込み」+「鯉武蔵」+「大ごい」のダンゴ（河川用）、右二つが「鯉パワー」単品（湖沼用）

決定する時、魚のモジリやハネがあるかどうか？また小魚がいるかどうか？魚の活性を判断する上で重要なのだ。相模川は流れがあるので、15分くらいでゆっくりバラケるようにダンゴを作り、「スーパー鯉むぎ」に水分を多く含ませずバラケやすく浮くようにし、流れに乗せて鯉を寄せるようにした。そして、あまり練り込まないでバラケやすいように作った寄せエサのダンゴを数個打ち、1



丸セイゴ20号の3本は吸い込み用。もう1本の5cmくらい長いハリスにチヌ10号はくわせ用。自作小判型30号のヘアピン式捨てオモリの吸い込み4本バリ仕掛け

仕掛けは吸い込み4本バリ仕掛けで、丸セイゴ20号の3本は吸い込み用。もう1本の5cmくらい長いハリスにチヌ10号をくわせ用に使います。仕掛けはできるだけ繊細に、シンプルに作るように心掛けています。

タックルと仕掛け

鳥養さんのタックルは5.4mの石鯛竿に両軸リールです。

オモリは自作小判型30号のヘアピン式捨てオモリ。ミチイトはナイロン8号を使用。鯉が食べたエサをチェックするためにハリスは「巨鯉ハリス」6号の黒色をくわせ用に茶色を吸い込み用に使い分けています。

くわせの「くわせコーン」はハリに1〜2粒で多く付けない。「手づくり芋」のくわせは乾燥させ、5ミリ角くらいの小さめのものを一個、ハリ先は必ず出すようにしてハリに付けた。その方が大きめのものよりハリ掛かりが良く釣果が上がるらしい。初めての釣り場では仕掛けのハリス

アユ釣り、アユ漁の最終日でアユの投網が入り、残念ながら場所を移動することに...



ワンポイントアドバイス
エサの配合はエサ袋に表示された分量どおりに混ぜると一番いいエサの状態になる。ダンゴエサは古いエサは使わないで、一投ごとに作るとバラケやすい効果が良い。

を長め（9cmくらい）にする方が吸い込み率が良いと鳥養さんは言う。通常エサ打ちは2時間くらいが目だが、相模川は流れがあり、ダンゴの寄せエサが早く溶けてしまうので、エサ打ちの交換時間を1時間くらいに短くした。鳥養さんは鯉をバラさないために、取り込み場所を小さな流れ込みの中に決めた。そして鯉が掛かってから慌てないためにタモ網は取り込み場所に置いた。数釣りの時は群れを散らさないためにヒットしたら竿の弾力を使い、鯉に空気を

吸い込みダンゴについて



鳥養さんの吸い込み用配合エサとくわせエサ

鳥養さんは、春の乗っ込み時期は植物性素材が多く含まれた配合エサ、秋の荒食い時期には動物性原料主体の配合エサを使い、吸い込みダンゴを作ります。

鳥養さんがダンゴエサのベースとしてよく使う、植物性素材がメインの「鯉ハコ」は、配合エサの粒子の細かさがちょうど良く、単品で十分釣れるし過去に巨鯉を仕留めた実績もあります。鯉を釣るためにはまず寄せエサを打つことが重要です。

動物性、植物性の原料が上手く配合された集魚力効果の高い「大こい」や、カニ粉、魚粉などの動物性タンパクが多い「鯉師」などの配合エサを混ぜて作ったダンゴを数個作ります。

鳥養さんのホームグラウンドの多摩川など、河川の汽水域では寄せエサに「よせアミ」を使うこともあります。

鳥養さんが「鯉ハコ」に何種類かの配合エサを混ぜる場合、初めは「大こい」

などの動物性配合エサを少し多めに混ぜ、魚がすぐ寄るようだったら、小物を選び大物に狙いを絞るために動物性の寄せエサを減らし、植物性のエサ主体でアタリを待ちます。

「イモ吸い込み」は大粒のイモのチップが大量に配合された、ジャミに強い大物が狙える素晴らしい植物性素材中心の配合エサです。

「イモ吸い込み」のダンゴと、くわせの「手づくり芋」のコンビネーションは最高です。寄せとくわせが同じイモなので違和感なく大物が狙えるので、鳥養さんは「イモ吸い込み」をベースエサでよく使用します。

鳥養さんは「イモ吸い込み」の他に、やはり大鯉が好むサツマイモが大量に含まれている「鯉将」も使います。

マルキユの配合エサはこのエサを使っても釣れますが、魚を寄せることを念頭に「タニシ吸い込み」など、匂いの強い配合エサを使いブレンドパターンをいろいろ変えてみるのも面白いとのこと

相模川で使用した 吸い込みダンゴの作り方 (河川用)

「イモ吸い込み」+「鯉武蔵」+「大こい」
「イモ吸い込み」200ccカップ5杯

「鯉武蔵」カップ2杯
「大こい」カップ1杯
杯をエサボウルに入れてかき混ぜる。それに水カップ2杯を入れ、かき混ぜて

小さく切って使用する。



「イモ吸い込み」200ccカップ5杯をエサボウルに入れる



「鯉武蔵」カップ2杯をエサボウルに入れる



「大こい」カップ1杯をエサボウルに入れる



エサが均等になるようによくかき混ぜる



水カップ2杯を入れてよくかき混ぜる



吸い込み用の3本ハリのちり本のハリにくわせコーンを1個付けてダンゴに埋め込む



「いもようかん」を小さく切って乾燥させる



ダンゴを握り長いハリスのくわせハリに「いもようかん」1個を付けて完成

鳥養考由の相模川の鯉釣り

伊佐沼で数釣り



小林一昭

仕掛けを投入したらダンゴが泥の中に沈まないように手前に少し引きずって浮かせる



伊佐沼は50～70cmクラスの鯉が多い

10月18日の夜、夕方過ぎから竿を出していた小林さんと合流していた小林さんが地元釣りの人から聞いた話では、伊佐沼は水が抜かれ水位が下がったため、鯉の食いが悪くあまり釣れていないらしい。伊佐沼を一周して見て、伊佐沼のふれあいセンター付近が比較的浅場でヨシや藻がある

10月中旬、マルキュー鯉モニター小林一昭さんに埼玉県川越市にある伊佐沼で、鯉釣りにチャレンジしてもらい、鯉釣りと鯉エサの話聞いた。

匂いの強い動物系のエサで鯉の数釣りにチャレンジ!

伊佐沼は周囲2.5km程の小さな沼で、地元釣りが鯉釣りを楽しむ憩いの場所である。魚影は濃いのだが小型の鯉が多い場所だ。北浦や霞ヶ浦などで、大鯉狙いに慣れていた小林さんにとって、小さな伊佐沼はむしろ手強い相手なのかも知れないのだ。

鳥養さんの湖沼用、吸い込みダンゴの作り方 「鯉パワー」単品



吸い込み用の3本バリエをダンゴに埋め込む



「くわせコーン」を潰す

「鯉パワー」を200ccカップ8杯をエサボウルに入れる。それに水カップ2杯（エサ袋に表示された4：1の割合）を入れてかき混ぜる。

それに「くわせコーン」を数十個潰して粒子を細かくし中身のエキスを出したものを混ぜてダンゴを作る。

くわせには「くわせコーン」を使用する。



ダンゴを握りハリスの長いくわせバリエに「くわせコーン」1～2個、または乾燥させた「手づくり芋」1個を付けて完成



潰した「くわせコーン」をエサボウルに入れ混ぜる



「鯉パワー」を200ccカップ8杯をエサボウルに入れる



吸い込み用の3本バリエのうち1本のハリスに「くわせコーン」を1個付ける



水カップ2杯を入れてかき混ぜる

プロフィール

鳥養 考由
(とりがい たかよし)

神奈川県出身、川崎市在住、37歳。鯉釣り歴24年、マルキューモニター。ホームグラウンドは北浦、霞ヶ浦など水郷一帯と多摩川の汽水域。鯉釣りの他、アオウオ、ソウギョ、レンギョの淡水大魚釣りを得意とする。鯉の大物記は103cm。川崎鯉路会会長。

小林一昭の伊佐沼の鯉釣り



伊佐沼での釣果。残念ながら大物は釣れなかった

午後になり気温も上昇し暖かい休日になったこともあって、狭いポイントに竿が乱立し、それに魚がおびえて寄らなかつたのか？思ったほど数が出なかつた。もっと釣果を上げるには、小さな伊佐沼では竿数は少なく、エサ交換

を早くした方がよいようだ。小林さんは北浦などでは大物狙いのため通常6時間くらいでエサ交換するが、伊佐沼では1時間くらいを目安に交換した。

地元の鯉釣り師は、「大こい」や「こイミー」などのシンプルなエサと市販の鯉釣り仕掛けで、鯉を釣り上げていた。今回、小林さんは「巨鯉」がメインのエサと「鯉パワー」がメインのエサ2種類のダンゴを試したが、「鯉パワー」に「イモ吸い込み」「ムギコーン」を使ったダンゴの方にアタリが多かつたようだ。釣果はあまり良くなかつたが、「雨が降り増水して水中の酸素量が増え、魚の活性が上がればもっと釣れるはず」と小林さんは言っていた。小林さんにとって伊佐沼のような小さな沼での鯉釣りはいい経験になったと思う。

*伊佐沼のような狭い釣り場ではお互いに譲り合つてトラブルのないように鯉釣りを楽しみましょう。

植物性の「鯉パワー」ダンゴにアタリが多く60cmクラスが…

18日の夕方からかなり寒くなり冷え込んだが、小林さんは夜釣りでは型は小さいが2本の鯉を釣り上げた。地元の人は早朝から夕方にかけての日中の釣りが多いので、静かな夜間が狙い目のようだ。(夜釣りではライトなど忘れずに、アタリがあつても慌てて車から飛び出すと危

険なので充分注意すること)

19日は北東の風で晴れ、早朝6時頃で気温10度、水温15度という状況だった。

午前中は冷え込んだせいかアタリが遠く、大型は期待できそうもない。そこで小林さんは「鯉パワー」がメインの配合エサに「鯉にこれだ!!」を加え、集魚力をアップさせたらまず60cm台が釣れた。



くわせに「生きなご」を使用することもある

を早くした方がよいようだ。

小林さんは北浦などでは大物狙いのため通常6時間くらいでエサ交換するが、伊佐沼では1時間くらいを目安に交換した。

好ポイントなのだが、水位減少のため底が見えてとても竿を出せるような状態ではない。またウナギの仕掛けが多く点在し、これといった川の吐き出しやテトラなどもない。従つて小林さんは比較的水深のある国道16号線側の場所に釣り座を構えたのだそう。

地元の釣り人によるとここは鯉釣りもヘラブナ釣りにも良いポイントらしい。休日ともなれば釣り人で賑わつたため、鯉がスれている可能性が高いが、小林さん

変化に乏しいのでポイントが限られる。小林さんがオモリを投げ底を探つた結果、竿を出したポイントは水深が1m弱しかなく、特にこれといったカケアガリもなかつた。また底がヘドロなので、オモリが底に深く沈んでしまつた。

水質も悪くアオコが発生し、活性が悪いのか魚のハネ、モジリも見られなかつた。さらに岸から30m沖にウナギの仕掛けと思われる竹杭と口



オモリを投げ底を探る。泥底が深い30m沖の杭の手前にポイントを決める

は鯉の数釣りにチャレンジした。

伊佐沼は流れがほとんどないので、川のように流れを気にする必要はない。その代わり水の流れ込み状況による水位、水質、風による水の動きなどが重要な要素となると思う。

湖沼でのポイントの目安としては、ワンド内のオダ、水門、テトラ、乱杭などだが、小さな伊佐沼は浅く

ープが横に張つてあり、鯉が掛つても絡まれる可能性がある。

小林さんは魚を寄せるために約30m沖の杭の手前にダンゴの寄せエサを打つた。その難しいポイントを狙つたのは、乱杭やロープを恐れずに鯉にエサを食わせることが先決だからだ。

泥が深く、仕掛けを投げたままだとダンゴが沈んでしまうので、小林さんは投入後、必ず仕掛けを引きダンゴを泥から出していた。

かなり泥が深い所では、仕掛けが深く沈まないようにダンゴをやや小さめに作り、オモリを軽くしたり、ハリスの長さを長くするなど、仕掛けの工夫も必要のようだ。



小林さん愛用の鯉釣りタックル



「鯉パワー」、「巨鯉」など小林さんが使用する配合エサ

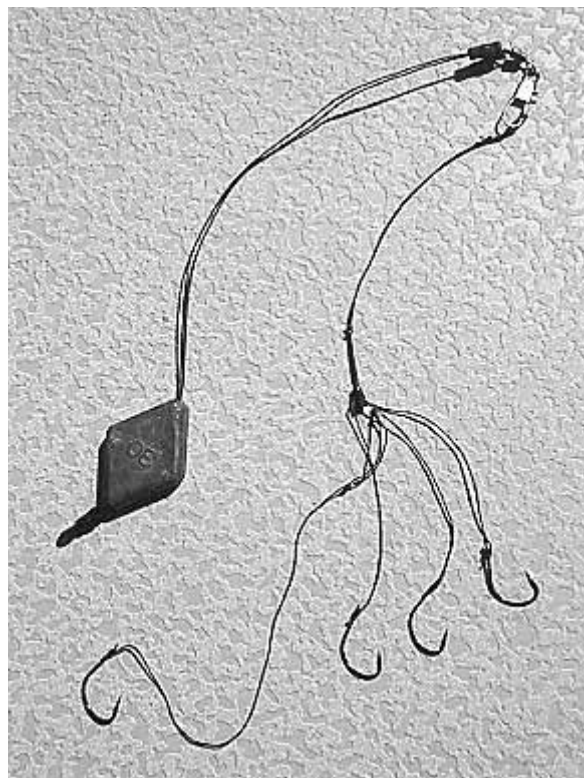
物性素材がメインに配合してありますので、大型の鯉をじっくり待てます。小林さんは鯉を早く寄せたい時、ベアスエサに「イモ吸い込み」、「コイミ」、「三色コイミ」、「ムギコーン」などをブレンドして吸い込みダンゴを作ります。

多くの種類を混ぜ過ぎるとそれぞれのエサの特質をなくしかねません。動物性植物性に限らず配合するエサのバランスが最も重要な要素です。その次に重要なポイントが吸い込みダンゴのバラケ具合を調整する水の量です。流れのない湖沼では早くバラケさせるために水の量を少なくします。流れのある河川では水の量を少し多くし、エサ持ちの良いように、ややネバリを加えるようにしてダンゴを作ります。また、エサ取りや外道が多い時は、植物性の配合エサをメインに使い、少ない時は動物性の配合エサをメインに使い分けます。河川と湖沼とは極端なエサの使い分けはありませんが、あえて言えば流れのある河川では「巨鯉」のような粒が荒い配合エサに動物性の匂いのあるものを混ぜ



底はヘドロなのでダンゴの大きさにも工夫が必要

て使うそうです。集魚力満点の鯉エサのベストセラー「大い」を使うこともあります。今回、小林さんは伊佐沼は型は小さいが魚影が濃いということと、流れもなく水質が悪いということとを併せ考えて、「鯉パワー」をメインに植物性でイモのチップが大量に入っている「イモ吸い込み」、それに大粒のムギとコーンが入った「ムギコーン」を混ぜたダンゴを使用しました。くわせには「くわせコーン」、「手づくり芋」を使って狙いました。



小林さんの吸い込み仕掛け。長いハリにくわせを付ける

ワンポイントアドバイス

伊佐沼のような小型が多い場所では大物狙いにこだわらず、吸い込み仕掛けのハリの号数を小さくする。日中、アタリが遠い場合にはダンゴの大きさを小さくし、エサ交換の時間も短縮して攻めの釣りをする。

タックルと仕掛け

小林さんのタックルは石鯛竿5・25mに両軸リールです。オモリはひし型30号オモリ。ミチイトはナイロン8号。ハリスは「巨鯉ハリス」8号。仕掛けは吸い込み3本バリ、くわせ1本バリで海津18号を使用しました。

吸い込みダンゴについて

小林さんは「巨鯉」のエサを使って北浦で110cmの巨鯉を仕留めた実績があるので、「巨鯉」は絶対に大鯉が釣れるエサと確信しています。タニシなどの生きエサは一発大物狙いの夢はありますが、鯉釣りのエサの配合を考えたりするプロセスの楽しみがありません。

マルキユの配合エサは単品だけでもちろん釣れますが、季節や釣り場によって使い分け、自分なりのエサの配合を考えるのも楽しみです。小林さんの場合、春は動物系のエサを主体に、秋は植物系が主体の吸い込みダンゴ作りで大物を狙うようにしています。

小林さんの吸い込みダンゴは「巨鯉」と「鯉パワー」をベースにして作ります。「巨鯉」は粒子が荒くジャミに強く、長時間エサがポイントに残り巨鯉が狙える信頼できるエサです。「鯉パワー」は植

小林さんの河川用、吸い込みダンゴの作り方

「巨鯉」+「三色コイミ-」



くわせ1本バりに「手づくり芋」1個を付ける



エサが均等になるようによくかき混ぜる



吸い込みダンゴを握り、吸い込み3本バ리를埋め込む



水カップ2杯を入れてかき混ぜる



「巨鯉」200ccカップ5杯をエサボウルに入れる



「手づくり芋」を付けたくわせバ리를仕掛けに取り付けて完成



吸い込み3本バりに「くわせコーン」を2~3個付ける



「三色コイミ-」カップ2杯をエサボウルに入れる

「巨鯉」を200ccカップ5杯、「三色コイミ-」カップ2杯をエサボウルに入れる。それに水カップ2杯を入れてかき混ぜる。

くわせには「くわせコーン」か「手づくり芋」を使用する。

プロフィール

小林 一昭
(こばやし かずあき)

埼玉県杉戸町在住、39歳。鯉釣り歴20年、マルキューモニター。ホームグラウンドは古利根川、行幸湖（権現堂）で北浦、霞ヶ浦など水郷一帯へも遠征。ヘラブナ釣りやバス釣りも経験したが、現在は鯉釣り一筋。鯉の大物記録は北浦の白浜で上げた110cm。魁野鯉会会長。

伊佐沼で使用した吸い込みダンゴの作り方（湖沼用）

「鯉パワー」+「イモ吸い込み」+「ムギコーン」

「鯉パワー」を200ccカップ4杯、「イモ吸い込み」カップ3杯、「ムギコーン」カップ1杯をエサボウルに入れる。それに水カップ2杯を入れてかき混ぜる。

くわせには「くわせコーン」か「手づくり芋」を使用する。その他に「生きなきピン詰」を使用することもある。



「鯉パワー」を200ccカップ4杯をエサボウルに入れる



エサが均等になるようによくかき混ぜる



くわせ1本バりに「手づくり芋」1個を付ける



「イモ吸い込み」カップ3杯をエサボウルに入れる



水カップ2杯を入れてかき混ぜる



吸い込みダンゴを握り、吸い込み3本バ리를埋め込む



「ムギコーン」カップ1杯をエサボウルに入れる



吸い込み3本バりにくわせコーンを2~3個付ける



「手づくり芋」を付けたくわせバ리를仕掛けに取り付けて完成